

オツマ・イエフディトの告発

人種差別、優越主義、アパルトヘイトは「意見」ではありません。ファシズムは「政治的立場」ではありません。それらは犯罪です——人間の尊厳に対する犯罪、平等に対する犯罪、そして人類そのものに対する犯罪です。

ほとんどの民主主義国家では、人種的または宗教的優越を公然と主張する運動は犯罪として扱われます。アメリカ合衆国で「白人パワー」やヨーロッパで「キリスト教パワー」と自称する政党は禁止され、訴追されるでしょう。しかし、イスラエルでは、**オツマ・イエフディト**（「**ユダヤのパワー**」）——このような運動のユダヤ版のイデオロギーを持つ政党——が政府内に存在しています。

イタマル・ベン・グヴィルが率いる、過去に人種差別扇動で有罪判決を受けた人物であるオツマ・イエフディトは、ラビ・マイル・カハネが創設し、その人種差別とテロリズムのために禁止されたファシスト的イデオロギーである**カハニズム**の現代の化身です。かつてテロリズムとして禁止されていたものが、今日では政府に主流化され、自身の国では決して許容しないであろう西側諸国の指導者たちによって擁護されています。

これは単なる偽善ではありません。共謀です。

カハからオツマ・イエフディトへ：禁止されたテロ、ブランド変更

ブルックリン生まれのラビ**マイル・カハネ**は、米国で暴力的なユダヤ防衛連盟を率いた後、1971年に**カハ**を設立しました。カハの綱領は明確でした：

- アラブ人は市民権を剥奪され、イスラエルおよび占領地から追放されるべきである。
- イスラエルは**ハラハ**（ユダヤ法）によって統治されるユダヤ神権国家となるべきである。
- 「大イスラエル」を確立し、ナイル川からユーフラテス川までの土地を併合する。

カハは1984年にクネセットに入り、1議席を獲得しました。しかし、その存在はイスラエルの政治体制を揺さぶりました。カハネは議会の演壇から民族浄化の言葉を使って、アラブ人の大量追放を公然と呼びかけました。彼は民主主義を弱さとみなし、平等を裏切りと非難しました。

反応は迅速でした。**1985年**、イスラエルは**基本法：クネセット（第7A条）**を改正し、人種差別を扇動する政党やイスラエルを民主国家として否定する政党を禁止する条項を追加しました。**1988年**、最高裁判所はこの改正を支持し、カハの選挙参加を禁止し、その綱領が根本的に人種差別的で民主主義と相容れないと宣言しました。

それでも、カハ支持者は活動を続けました。**1994年**、必然的な出来事が起こりました：その一人、**バルーフ・ゴールドシュタイン**がヘブロン虐殺を行い、ラマダンの祈りの最中に29人のパレスチナ人を殺害しました。この残虐行為を非難する代わりに、多くのカハニストはゴールドシュタインを英雄として称賛しました。イスラエル政府は、大きな圧力の下、カハおよびその派生組織カハネ・チャイを**テロ組織**として禁止しました。米国、カナダ、その他の政府もこれに続けました。

あらゆる基準で、カハニズムは**人種差別、テロリズム、ファシズム**のイデオロギーと認識されました。

しかし、カハニズムは死にませんでした。それは適応しました。2012年、カハの卒業生たちが**オツマ・イエフディト**を設立しました。この政党は「新しい」と自称しますが、「不忠な」アラブ人を追放し、パレスチナの土地を権利なしで併合し、ユダヤの優越を確立するという同じ核心的イデオロギーを引き継いでいます。

イスラエル最高裁がかつて人種差別として禁止し、政府がテロとして禁止したものが、今、権力の中心に座っています。

カハニストのイデオロギーとしての犯罪

国際刑事裁判所のローマ規程および**ジェノサイド条約**は明確です：オツマ・イエフディトの綱領は政治ではありません。それは犯罪です。

1. アパルトヘイト（ローマ規程、第7条(1)(j)）

- 一つの人種集団が他を体系的に抑圧することによる支配として定義される。
- オツマ・イエフディトの政策——二重の法制度、植民地拡大、平等の否定——はアパルトヘイトである。

2. 強制移送（第四ジュネーブ条約、第49条）

- 占領下の住民の追放または移送を禁止する。
- オツマ・イエフディトは「移送」、すなわちパレスチナ人および「不忠な」アラブ市民の追放を公然と主張している。

3. 迫害（ローマ規程、第7条(1)(h)）

- 人種的または民族的理由による集団に対する権利の重大な剥奪。
- アラブ人の権利を剥奪する党の綱領は迫害に該当する。

4. ジェノサイドの扇動（ジェノサイド条約、第III条(c)）

- ジェノサイドを犯すよう直接的かつ公然と扇動することは、ジェノサイドが起こるかどうにかかわらず罰せられる。
- 党指導者が支持する「**アラブ人に死を**」という叫び声は、まさにこの定義に当てはまる。

旗の行進：あからさまなファシズム

毎年恒例の**エルサレム旗の行進**は、オツマ・イエフディトの犯罪性を明らかにします。

毎年、超国家主義者がエルサレムの旧市街のムスリム地区を練り歩き、「アラブ人に死を」や「お前の村が燃えますように」と叫びます。彼らはパレスチナの商人を攻撃し、財産を破壊し、住民を恐怖に陥れます。抑止されるどころか、警察の護衛で保護されます。

現在国家安全保障大臣である**イタマル・ベン・グヴィル**は、外部の扇動者ではありません。彼は定期的な参加者です。彼の存在は承認であり、この扇動が国家の祝福を受けているというサインです。

どの民主主義国家でも、このようなイベント——少数派に死を叫ぶ——は禁止されます。参加者は逮捕され、主催者はヘイトクライムで訴追されるでしょう。イスラエルでは、それは愛国心として神聖化されています。

2024年1月26日、国際司法裁判所は、南アフリカ対イスラエルの一時的措置として、イスラエルに対し「ジェノサイドを犯すよう直接的かつ公然と扇動することを防止し、罰する」ことを命じました。旗の行進は、まさにそのような扇動の具現化です。それを許可し、さらに悪いことに参加することで、イスラエルはICJの拘束力のある命令に公然と違反しています。

その含意は明白です：従順には、旗の行進の禁止、カハニズムの犯罪化、そしてオツマ・イエフディットの追放が必要です——1945年以降のドイツがナチズムを犯罪化することを求められたように。

イタマル・ベン・グヴィルの刑事責任

ベン・グヴィルの経歴は過激主義の目録です：

- 2007年に**人種差別扇動**および**テロ組織（カハ）への支持**で有罪判決。
- 1995年にラビン首相を脅し、テレビでラビンの盗まれた車のエンブレムを自慢し、「**我々は彼の車にたどり着いた——彼にもたどり着く**」と述べた。数週間後、ラビンは暗殺された。
- ヘブロン虐殺者バルーフ・ゴールドシュタインを崇拝し、長年彼の肖像を自宅に飾っていた。
- 集会で「アラブ人に死を」と叫ぶことを主導した。
- 国家安全保障大臣として、人種差別的な暴徒を抑圧する代わりに保護する警察を監督し、植民者を武装させ、パレスチナ人を抑圧している。

ローマ規程に基づき、ベン・グヴィルは以下でICCによる訴追に直面する可能性があります：

- **人道に対する罪としての迫害**（第7条(1)(h)）。
- **アパルトヘイト**（第7条(1)(j)）。
- **ジェノサイドへの直接的かつ公然な扇動**（第25条(3)(e)）。

報告によると、イスラエル当局者に対する秘密のICC逮捕状がすでに存在する可能性があります。ベン・グヴィルは、その役割からして主要な候補者でしょう。

西側の偽善：国外でファシズムを擁護し、国内で非難する

最も重大なスキャンダルは、オツマ・イエフディットが存在するだけでなく、それが容認され——さらには擁護されている——ことです。

- ヨーロッパの「白人パワー」政党は即座に禁止されるでしょう。
- 「ユダヤ人に死を」と叫ぶ行進はファシズムとして非難され、警察によって解散されるでしょう。
- 参加する政治家は恥をかき、公職から追放されるでしょう。

しかし、「ユダヤのパワー」は正常化されています。人種差別とファシズムに反対すると宣言する西側指導者たちは、オツマ・イエフディットを含む政府を武装し、擁護し続けます。彼らは国内の優越主義者を非難しながら、国外ではそれを受け入れます。

この偽善は、彼らの人権レトリックの空虚さを明らかにします。白人優越を非難しながらユダヤ優越を容認することで、西側政府は人権の普遍性そのものを裏切っています。

結論：評決

事実は否定できません：

- **オツマ・イエフディット**は、人種差別およびテロとして禁止されたカハの直接の後継者です。
- そのイデオロギー、**カハニズム**はファシズムです：優越主義、人種差別、暴力。
- その政策は、国際法に基づくアパルトヘイト、強制移送、迫害、ジェノサイド扇動を構成します。
- その指導者が支持する**エルサレム旗の行進**は、2024年1月のICJの拘束力のある命令に直接違反する、国家保護のヘイト集会です。
- その指導者**イタマル・ベン・グヴィル**は、個人的な刑事責任を負い、ICCによる訴追に直面する可能性があります。
- オツマ・イエフディットを容認し擁護する西側指導者は、ファシズムの正常化に共謀しています。

前例は明確です。ニュルンベルク後、ナチズムはドイツで禁止されました——「政治」としてではなく、犯罪的陰謀として。今日、同じ原則が適用されます：**カハニズムは犯罪化されなければなりません**。オツマ・イエフディットは排斥され、禁止され、それが示す警告として記憶されるべきです。

評決：オツマ・イエフディットは政党ではありません。それは人道に対する罪を広めるファシスト組織です。

道徳的義務：オツマ・イエフディットを容認することは、人類そのものを裏切ることです。白人、キリスト教、ユダヤのいずれの形であれ、ファシズムは意見ではありません。それは犯罪です。そして、反対され、犯罪化され、打ち負かされなければなりません。